



ねっどわーく



H24. 06. 29 No.21

■危機管理の「さしすせそ」と学級経営

自分事ながら、修学旅行が近付き、自主研修での安全を昨日あーでもない、こーでもないと考えていました。で、思ったのが上のタイトルです。料理の「さしすせそ」というのは聞いたことがありましたが、危機管理にも「さしすせそ」があるそうです。なるほどなあ〜と感心。感心しながらも、それって、日常の学級経営（授業も含めて）とつながるんじゃないかなと勝手に思い、おたよりに載せてみました。

	危機管理の		日常の学級経営（授業も含む）の
さ	最悪の事態を考え	➡	子どもたちのいろんな反応を予想すること （それでいてさえも、予想外が起こりますよね） 授業で言えば、「こーいったら、こーくるだろうな」的な
し	慎重に	➡	文字通り、慎重に。子どもの言動の裏をよむことかな。 授業で言えば、個の考えの背後にあるところを。
す	すばやく	➡	リアルタイムで。その時をとらえて。機会指導と言ったりもしますね。
せ	誠意をもって	➡	どんな小さなことも、そんざいに扱わず。 生徒指導的には、子どもの行為の善悪だけをみる。 子どもの存在自体は、絶対肯定！ 授業で言えば、一人ひとりの意見・つぶやきを大事にする
そ	組織で対応	➡	文字通り、周りの先生方の意見を聞いて。 「組織で対応」→「相談」と同じことかな。

で、何を言いたいかというと、どれも大事なのですが、個人的にはやっぱり「そ：組織で対応」が大事だなと思ったりします。

つまり、簡単に言えば、職員間でのコミュニケーションでしょうか。子どものちょっとしたこと（変化でもいいし、その日あったことでもいいし）を話題にしていけば、学級経営も日常の授業改善も、案外、すんなりといくのかなあと。だって、いろいろなアイデア等、タダでもらえますからね。一人で思い悩むことも大事ですが、周りに振って、騒いでみたりすることって今のご時世、特に大事かと思います。

